サンフロント21
懇話会

〒410 沼津市魚町1番地
-8560 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL 055・962・6520

2015.11.25 No.105

2015年度総会　5月26日開催

活動テーマは世界遺産を守り育てる支援、スポーツ産業の創出支援、社会資本の整備推進、「人と動物の未来センター」の開設支援の4つ
東部に吹く追い風生かし、さらなる活性化を

山本浩氏が記念講演「一人一人の声を聞け～視点を変えるスポーツ界～」を語る

「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は5月26日、沼津市のホテル沼津キャッスルで2015年度総会を開いた。会員の企業経営者や県、市町長ら行政関係者、県議らが出席し、人と動物の未来センター（アミティエ沼津）の開設支援や世界遺産を守り、育てる支援などを柱とした本年度の活動方針案を承認した。山本浩法政大学健康学部教授が「一人一人の声を聞け～視点を変えるスポーツ界～」と題して記念講演を行った。

主催者として松井純静岡新聞社・静岡放送会長は「東部活性化を掲げてスタートした懇話会活動は21年目を迎えた。建て替えられたキラメッセぬまづが我々の活動を象徴している。さらなる東部の活性化に努めていきたい」とあいさつした。代表幹事の岡野光喜スルガ銀行社長は「時代を先取りする活動が当懇話会の特徴。今、東部に吹く追い風を有効に生かし地域活性化に結び付けたい」と力を込めた。

活動方針を説明した伊東哲夫運営委員長は、20年間の提言活動を踏まえて長期的な視点で継続して取り組む基本方針として▽広域連携の推進▽新たな観光交流戦略の促進と支援▽ファルマバレープロジェクトの推進―を定めたことを明らかにした。その上で本年度の活動テーマに▽「人と動物の未来センター（アミティエ沼津）の開設支援」▽世界遺産を守り、育てる支援▽スポーツ産業の創出支援▽社会資本（インフラストラクチャー）の整備推進―を示した。

懇話会は今後、これらのテーマに沿って伊豆、東部、富士の3地区で分科会を開催し、基本方針の実現を目指す。

主催者あいさつ

静岡新聞社・静岡放送会長

松　井　　純

県東部の活性化を掲げてスタートしたサンフロント21懇話会の活動は21年目を迎えました。振り返ってみますと一番大きな成果はキラメッセぬまづでして、先般新たに建て替えられて沼津を象徴する建物となっています。私たちの活動が活性化に大いに役立っているのではないかと思います。

日本経済は各企業の業績が好転し増収増益がほとんどですが、中身的には株価上昇に伴う時価評価の増大が一因ともなっており、このまま進むのか否か、いささか気になります。いずれにしても静岡県は独自の道を歩みながら少しでも景気を良くしていきたいと願っているところでございます。

本日はサッカーに詳しい山本浩法政大学スポーツ健康学部教授に講演していただくわけですが、沼津でもサッカーに熱を入れています。どうも清水、磐田がいまいちパッとしない状況ですので、沼津にはぜひ頑張っていただきたい。今年のテーマにはスポーツ産業の振興育成が入っています。興味あるお話が多々出て来るのではないでしょうか。じっくりとお聞きください。

懇話会代表幹事あいさつ

昨今、地域創生が叫ばれていますが、我々サンフロント21懇話会は20年以上も前から、県東部の各地域がそれぞれの地域の特徴を生かした活性化策の提言や支援に官民一体となって取り組んでまいりました。国に先んじた活動であったと自負しています。このような有意義な活動を継続できたのは会員の皆さまの協力とご支援のお蔭でございます。あらためて感謝を申し上げます。

時代を先取りする提言活動は当懇話会の特徴であります。今年度は設立20周年事業に位置付けました「人と動物の未来センター」がいよいよ活動を始めます。今年度の活動方針は後程ご審議いただきますが、活動テーマの一つに世界遺産を守り、育てる支援を掲げています。７月には伊豆の国市の韮山反射炉の世界文化遺産登録が濃厚となり、９月には伊豆半島ジオパークの世界ジオパークパーク認定の可否が決まります。世界遺産登録３年目となる富士山と共に、これら東部に吹く追い風を有効に生かし、地域活性化に結び付ける活動を実践していきたいと思います。

スルガ銀行社長

岡　野　光　喜

2015年度活動方針

サンフロント21懇話会はこれまで20年間の提言活動と県東部地域の特徴を踏まえ、今後、中長期的な視点から継続的に取り組むべき提言、支援活動を基本方針と定め、この基本方針を具体的、実践的に実現するため年度ごとに活動テーマを設けることになりました。

基本方針は**広域連携の推進▽新たな観光交流戦略の促進と支援▽ファルマバレープロジェクトの推進**―です。この3つの基本方針に優先順位は設けず、並行して取り組んでいきます。

総会で承認された4項目が基本方針の実現に向けた2015年度の活動テーマとなります。各テーマの概要は次の通りです。

■世界遺産を守り、育てる支援

今年、世界遺産・富士山は登録3年目を迎えます。構成資産の保全と活用のバランスを考慮した「世界遺産を守り、育てる」という地域住民の意識を高める活動を展開します。今年は7月に韮山反射炉(伊豆の国市)が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産への登録が濃厚となりました。9月には伊豆半島ジオパークの世界ジオパーク認定の可否が決まります。こうした世界に誇る地域資源の「登録・認定」効果により増加する観光客や来訪者への対応は、地方自治体だけでなく東部の全市町がスクラムを組んで取り組む重要な課題です。例えば富士山の構成資産と伊豆半島のジオサイト、韮山反射炉を組み込んだ周遊コースの策定や富士山の軽登山体験と温泉・美食を組み合わせたツアーの実施など、地域の特性を生かした高付加価値の受け入れ態勢を充実させる必要があります。

■「人と動物の未来センター(アミティエ沼津)」の開設支援

当懇話会が2011年度、静岡県知事に提言した「人と動物の未来センター」は沼津市西浦の市有地を建設地として実現段階に入っています。

行き場のない犬・猫を引き取り、健康をチェックした後、一定期間飼育し、しつけや教育をして新たな飼い主に譲渡する活動のほか、獣医師・動物看護師の研修・教育なども行う民間による国内初の“動物の愛護と福祉の総合センター”です。当懇話会は設立20周年の記念事業に位置付けています。

「ペット同伴観光の先進地」や「動物飼育マナー日本一のまち」を実現する拠点となり、学会や動物の愛護イベントの開催などを通じ、交流人口の拡大に寄与することが期待されます。当施設の意義や将来性、波及効果などを積極的に発信し、開設後を見据えた動物愛護ボランティアのネットワーク化活動を支援します。また動物との触れ合いによる癒し効果の探求など、ファルマバレープロジェクトとの連携を探ります。

■スポーツ産業の創出支援

当懇話会はスポーツが持つ地域へのさまざまな波及効果に着目しています。中でもサッカーJ3への参入を目指すJFL「アスルクラロ沼津」は東部地域におけるスポーツ産業発展の重要な礎の一つであり、引き続き支援をしていきます。

昨年1月、伊豆・東部地域の企業と行政、団体が連携し、スポーツ産業の創出を図る「県東部地域スポーツ産業振興協議会」が発足しました。スポーツイベントの企画や実施、2020年の東京五輪をにらんだ合宿誘致などスポーツ産業を事業として軌道に乗せるには厳しい地域間競争を勝ち抜く必要があります。そのためには伊豆半島ジオパークと同様、伊豆・東部地域の市町連携が不可欠です。その醸成を促す活動を展開します。

■社会資本(インフラストラクチャー)の整備促進

東部地区の一体性や回遊性を高める社会資本の整備促進を訴えます。伊豆縦貫道、沼津市の鉄道高架化事業といった交通・都市インフラ整備の重要性を地域住民により強く認識してもらえる啓発活動を展開します。

観光誘客は交通の定時性の確保が競争力を高めます。年間4000万人近い観光客が訪れる伊豆半島では地域住民だけでなく、観光客の安全・安心の確保は使命です。大規模地震発生時の救命・救援ルートの確保には伊豆縦貫道の全面開通が不可欠です。事業化が決まっていない天城越え区間の設計段階評価への着手、さらに東駿河湾環状道路の西区間(沼津市岡宮～沼津市原、延長7.9㌔)の早期整備を訴えます。

交通インフラと同様、情報インフラの整備も観光・防災両面における喫緊の課題です。県が今年の夏山シーズンまでには富士山頂付近に整備するという無料WiFi(公衆無線通信)設備を、富士山ろく、伊豆半島全体にも早期に広げる必要があります。

記念講演

「一人一人の声を聞け ～視点を変えるスポーツ界～」

講師：法政大学スポーツ健康学部教授
山　本　　浩氏

近づく2020年、五輪は世界共通のビッグイベント

2020年の東京オリンピック・パラリンピックのことがスポーツ界では主役のように取り扱われています。このビッグイベントに巨額な資金がつぎ込まれ、私の周りのスポーツ競技団体関係者に聞くと「とてもじゃないけどこんなにたくさんのお金使えないよ」というぐらい強化資金が降りてきているそうです。一方で2020年が終わったらどうなるのだろうという戸惑いもあります。これを一体どうするかが2020年を考える上でもう一つのテーマだと思います。

ビッグイベントとは何でしょうか。ロンドンオリンピック（五輪）の前に英国ＢＢＣがアンケート調査をしました。英国民は五輪、サッカーのワールドカップ（W杯）、世界陸上と答えています。今年ラグビーの世界大会があるにもかかわらず、数の上では世界陸上を挙げました。ところが米国の雑誌「ナショナルジオグラフィック」が行ったアンケート結果はちょっと違います。10競技10大会を挙げていますが、①ル・マン24時間耐久レース②五輪③サッカーW杯④スーパーボウル⑤ＮＡＢファイナル⑥ゴルフのマスターズ⑦馬で行うポロ⑧テニスのウィンブルドン⑨野球のワールドシリーズ⑩馬の障害レースグランドナショナル―となっています。国や土地が違えば関心も違い、ビッグイベントに対する感覚も異なります。でも五輪はビッグイベントのナンバーワンに列してもいいでしょう。バッググラウンドにあるのは伝統です。長いだけではなく、格式なり方法論なりがイノベーションしながら進化しているからです。時代に合わせることによって多くに人が関心を持ってくれます。これが実はビッグイベントなんです。

ビッグイベントにここ数十年、プロフェッショナルの存在が欠かせなくなりました。我々は長いことプロフェッショナルとは、そのパフォーマンスに対してお金であがなってくれる存在、金銭を受け取ることができるのがプロだと受け止めてきました。そしてもうアマチュアではないとかアマチュア規定に違反するといったことが繰り返されました。実はこのお金にはメッセージが込められています。一つは感謝、二つ目は支援、さらには称賛、期待といったものがあります。単一ではなく色々混ざり合ってお金が出て来るわけですが、スポーツの場合はこの４つでしょう。昔は感謝や支援だったものが、今は期待とか称賛が加わり、混ざり合って出て来るようになりました。

プロはお金だけでなく情報が重視される時代

ところがプロは金だけじゃないぞというのが今の時代です。もちろんお金はベースにありますが、情報が大切な時代になってきました。道理や仕組みや状況を知っているかどうかで世界で戦えるのか否かが決まってきます。特に自分のことを知っているかどうか、さらには自分の使うべき理論や技術を知っているか、またライバルのことを知っているかどうか―こういったたくさんの情報を集めながら、適切にそれらを取捨選択していく時代にプロフェッショナルは入りました。選手だけが知っていればいいという問題ではなく、周りにいるスタッフ、監督、親といろんな人が知っているかどうかです。

荒れる「春のセンバツ」は水分不足が一因

スポーツをする際には水分を取りなさいとよくいいます。体内の水分が汗となって排出されると体温を下げる作用が働くことは皆さんご存じですね。水分が減ると血液中の粘り気が高まり運搬能力が低下し、体の隅々まで酸素が届かなくなり、老廃物が回収されなくなってきます。そのために動体視力が低下するとか判断力が鈍るという現象が起きてきます。友人のドクターは「春の選抜高

校野球は荒れるセンバツとよくいわれるけれど、春は夏に比べて気温が低いので水分補給の意識があまり働かない。荒れるのは水分不足のためだ」と言っています。今は高校野球の指導者たちも水分の効能を知る人たちが増えたので、心配するほどではなくなってきました。昔は「水を飲まないスポーツ」を強いられましたが、このドクターは「食べ物の違い」とも指摘します。昔のどんぶり飯とみそ汁、大根の煮つけ程度の朝食でも午前中持つぐらいの水分が体内に入っていた。ところが今は夜更かしをして朝ごはんが食べられない子供が増えており、洋食の普及で水分の入り方も変わってきているようです。

技の開発促す器具、本番では特性把握が不可欠

体操の世界ではひねり技に優れた選手が出て来るようになりました。代表的存在が白井健三選手です。その背景を探ってみました。体操や卓球は小さい時から練習をしないとなかなか技術が身につかないとされています。あるコーチは練習環境を挙げました。「小さい子は筋力が少ないので高さが出ないし、ひねりも加えられない。そこで高く飛び上がれるような器具を使えばひねり技ができることに気付き、トランポリンを取り入れた」と言いました。タンブリングトランポリンを使えば高く飛び上がることができ、ひねりも加えられます。高価な用具ではありますが、足りない部分を補って必要なトレーニングを可能とし、子供たちの能力を上げ、技術がどんどん上がってくるわけです。

ロンドン五輪の体操男子団体は金メダルが期待されていたのですが、直前の報道で「本番で使用する器具への対応がカギを握る」と指摘されました。あの内村が種目別の鉄棒の予選ラウンドで何と16位スタート、しかも彼が一番いい成績と苦戦を強いられました。フランス製器具の特性、個性に対応できていなかった。でもさすがに内村です。この後しっかりアジャスト（順応）して最後は個人総合を取った。国際体操連盟は公式用具についてどの大会でどの用具を使うか早めに通達していますが、認定公式用具は数が多く、すべてをそろえて備えることは資金的にも大変で痛しかゆしのところがあります。

時間を目的のために有効に使うのがプロ

プロが大切にするものにはお金、情報に加えて時間があります。プロは24時間、365日、４年というのを自分の中で組み立てながら、自分の目標に向かって進んでいきます。サッカー選手の一日の時間配分を比較してみました。アマチュア時代はトレーニングの時間が12％でだいたい２～３時間、業務38％、団らん６％、栄養13％、睡眠が8時間として29％ぐらい。昔は昼過ぎまで、あるいは夕方まで仕事をしてその後練習ということが少なくありませんでした。Ｊリーグはどうかというとトレーニングは８％でアマチュアより少ない。業務も４％あり、団らんの時間もそれなりに取っています。栄養は17％でプロの選手は栄養を取ることも仕事のうちです。映像などで相手チームを分析する研究が８％、そしてデータ上では睡眠が50％を占めています。体の再生のためよく寝るし、よく休んでいます。プロのパフォーマンスを可能にするベストコンディションづくりのため時間を有効に組んでいるわけです。自分の目的のために時間をどう使うか。サラリーマンに置き換えれば焼鳥屋に行くために働くのはアマチュアであり、プロはその焼鳥屋に先輩を呼んで仕事上合点のいかないことなどを聞いて明日からの仕事に生かします。そしてプロは評価が大きなウエートを占めます。メディアは記事や番組、評論などで、スポンサーは契約や肖像権に反映させるでしょう。大衆は称賛や人気につないできます。時間の有効活用は今のプロにとって非常に重要なものとなっています。

吸っていない空気は吐けない、コミュニケーションの基本

プロが大切にするものにもう一つ、コミュニケーションがあります。どう自分を伝えるか、主張できるかが必要な時代です。昔は上意下達が主流でしたが、今は自分の能力をきちんと認識して立ち位置を知り、その能力が何のために使われているかなどを知った上で振る舞っていかなければなりません。コミュニケーションのポイントは体の中にあるものを外に出す「吐く」行為です。つまり話す、書くこと。対極にあるのは「吸う」行為で聞く、見る、読むになります。この聞く、見る、読むがしっかりできた上で書く、話すへと持っていかなければなりません。吐くことだけに思いが至り、私のところにも「どうやってしゃべったらいいですか」と聞いてくるプロの選手が少なくありません。そうではなくて何をどう聞くのか、何をどう見るのか、何をどう読むのかというところなしに、吐く行為はできないのです。吸っていない空気は吐くことができない。ここになかなか思いが至らないのがまだまだ日本の現状ではないで

しょうか。指導者が一方的に吐いて、選手が一方的に吸っている現象はバランス的にもおかしいと思います。自分の意思で吸いながら自分の意思で吐けるようになれるかどうか、プロになるための最後の１枚のピースのような気がします。

人々を魅了する大勝負や因縁対決、かけがえのない存在

ビッグイベントに人々が関心を寄せる、即ちスポーツが人をひきつける要因は何でしょうか。一つはそれが一世一代の大勝負かどうかです。見てみたくなる人がたくさん出てきますし、放映権も発生する。大勢の取材陣も詰めかけます。大勝負の条件には結果の重大性があります。五輪の金メダルがいい例でしょう。あるいは世紀の対決、この間ボクシングで超高額なファイトマネーの試合がありました。さらには因縁の対決。でも週に１回では盛り上がらない、ある程度珍しいものでないといけない。一世一代の大勝負に次いで２つめに必要なのは高いレベルの戦いです。それには速さとか持久力、パワー、技術、戦術、そして好敵手の存在といったものが必要です。３つめ、実はこれが一番大事ですが、かけがえのない選手やチームが出ているかどうかです。「かけがえのない」といえばまず家族。身近な例に孫の運動会があります。運動会に関心があるのではなく孫がどうなのかを見にいく。母校もそうですね。夏の高校野球の予選たけなわのころ、多くの方がスポーツ欄の下の方にある地方大会の結果を追っています。自分の生まれ育った、あるいは住んでいる地域の選手やチームもかけがえのない存在です。そして日本代表となります。もう一つ加わるのは「あこがれのスター」でしょう。人を引っ張っていく上での大きな要素です。象徴が国体であり、日本選手権や世界選手権、オリンピック・パラリンピックとなります。そして優れた設備や準備、大会運営などが成功のカギを握っています。

画期的な改革に乗り出したドイツ陸上競技連盟

我々の周りにあるスポーツの状況が少しずつ変わってきました。特にドイツの先進的な試みが目立ちます。ロベルト・コッホ研究所がドイツの子供の環境を巡る変化を100年前と比べた研究論文を発表しました。通学の道のりが昔に比べ20分の１となっている中で、一日24時間をどんなかたちで過ごしているかを調べました。横になっているが９時間、座っているが９時間、立っているが５時間、そして動いているはわずか１時間でした。このデータを手にしたドイツの陸上競技連盟が「深刻な運動不足。子供にもっと運動させ、ひいては陸上競技を見直してもらおう」と動き出し、新しい陸上競技のプログラムづくりを始めました。大人と子供の行動パターンの違いを知るために、ＡからＢ地点までの３㌔を自由に行ってもらうと、大人は誰もが無駄なく効率よく起伏のないルートを行きました。ところが子供はストレートには行きません。石を拾う、虫を取る、花を摘む、木に登るなどとさまざまでした。

2013年１月から全国的に始めたプログラムでは約束事を決めました。一番下の年代は３～４種目、その上は４～５種目、５、６年生は４～６種目とし、必ず障害、ハードルを入れるようにしました。これは調整力といって、目の前にある障害を自分の意思でここから飛べばクリアできるという能力を身に着けてもらうためです。もちろん走る、跳ぶ、投げるという種目も入っています。

大会もユニークです。１年生から６年生までそれぞれ年代別に行いますが、３時間以内で終わる、週１回だけ、チームで戦うという条件を付け、１～４年生は個人記録を付けないとしました。チームは２学年で編成し、男女混合で１チーム６～11人、クラブ対抗戦です。得点経過は常にみられるようにしてあります。

１、２年生の30㍍走はうつぶせの状態からスタートします。下はいつも芝生とは限りません。砂の場合もあれば人工物の場合もあります。スタンディングでのスタートを取り入れることもあります。一つの方式、ルールに決めつけないでいろんな方法を取り入れ、しかも子供たちの発達段階に応じた30㍍走を実施しているわけです。長距離はあまりやりませんが、学年が上がるにつれて必要になって来るので400㍍～600㍍のクロスカントリーを取り入れています。これが面白い。的当てゲームが入っています。冬の競技・バイアスロンと似ていて、ちょっと重めのボールを的に向かって投げます。当たって落とせばゴールに向かうし、外せば罰走でもう１周です。息せき切って走ってきて気持ちを切り替えて的に命中させるための戦略性を養うことができるし、的当て自体が楽しいので子供たちの人気が高いそうです。ジャンプは踏切板に段ボールを使います。段ボールが動いたらファウルですから上に向かって飛ぶようになります。成績は距離ではなく点数で表します。低学年の子供には３㍍40と３㍍50の違いがよく分かりません。３点なのか４点なのか、点数なら価値の違いが分かりやすいからです。投てきも工夫しています。やり投げの練習にはバトンを使い、

低学年はノーステップで投げます。フラフープ投げは同じ回転系のハンマー投げに通じます。しかも危険防止のため後ろに置いてあるのはサッカーのゴールです。子供たちが喜ぶちょっとしたアイデアですね。こうしたプログラムは子供たちに大変人気で、「週２回ぐらいやりたい」という声が陸上競技連盟に殺到しているそうです。

ドイツの試みは子供たちのある年代では何が足りないのか、この年代になって来るとどうなのかといった分析だけにとどめないで、対応するためにどういう行動を取ればいいのかと具体的に取り組んでいることに特徴があります。分析を分析で終わらせない姿勢が明確に出ています。

変容ドイツ、個の力の「私」から「我々」に転換

ドイツの変容は昨年のW杯で優勝した背景にも表れていますが、彼らが今まで「私」といっていた言い方をやめ、「我々」というようになってきたのです。個人能力の非常に高い人たちが我々という主語で語り始めた。つまりチームとしてどういうことをやればどうなるんだということを知り始めています。ドイツにはゲルマン魂と呼ばれる戦う精神、とことんやり抜く気持ちがあり、そういうものを大事にして一人一人が強くなるためにやってきたわけですが、2014年、2015年の段階で私から私たち（我々）に変わってきた。これは怖い。外国の指導者は警戒心を持ちながらドイツの変容をみています。

では日本はどうか。私たちといってきたのが私となって久しいのです。ブラジルW杯でも「個の力」と言っていました。我々と言っていた日本が個の力に転換し、ドイツは逆に個の力から我々に変わってきた。この差がどう出るか、あんまりはっきり出ないといいなと思っているところです。

米国ではY－coach、指導者向けに助言

スポーツの魅力についてもう少し触れさせてください。米国に「Ｙ－ｃｏａｃｈ」という子供たちにスポーツを指導する指導者のためのホームページがあります。家の中に閉じこもりがちな子供たちをスポーツに駆り立てるためにはどうすればいいのかを７つの理由を挙げてアドバイスしています。

まず「健康な生活スタイルを勧める」こと。米国で不健康な子供たちといえばビッグコーンを山ほど食べて発泡性の甘い飲料を飲みながらテレビを見ている姿が想像できます。２つめは「自分への敬意を高めることができると言ってくれ」です。マラソンの有森裕子さんの言葉「自分で自分をほめてあげたい」の精神と同じで、子供が「自分のやってきた努力が報われた」と実感できる瞬間がスポーツにはあるということでしょうか。３つめは「目標設定の方法を学ぶことができる」です。スポーツは目標を設定しながらクリアして次のステップを目指します。できなければ元に戻るか別の角度からチャレンジする。社会でも重要なアクションといえます。４つめは「チームワークを学び経験することができる」ですが、こんなことを加えています。「チームは古代英語で家族という意味がある。チームになるためには①同じ目標を同じ時間帯に持つ②目標達成の過程で関係を持つ③この関係が分かっていること―この３つが揃って初めてチームと呼べる」。ただ寄り集まっているのではなく、目標のために関係を持っていてその関係も分かっているというのがポイントです。５つめは「タイムマネジメントスキルを伸ばすことができる」。子供でもするべきことがたくさんあって十分に忙しい時代です。スポーツをしようとしたら何かを外さなければいけないので、自分の時間を自分で設定できるようになります。親が決めてやるのではなく、自分で決める能力が身に着くことになるでしょう。６つめは「逆境への対応を覚えることができる」。勝ち抜きトーナメントともなると頂点に立つ者以外は大なり小なりの逆境を感じます。何であんなことをしたんだろう、ああしておけばよかった、どうすればいいんだろう―などということが出てきます。スポーツはそれらに一つ一つ対応しながら次の目標設定に向けて体をむくむくと起こしていくことができる。そんな能力を身に着けることができると言っています。７つめに「スポーツはとにかく楽しいんだから」と言って締めくくっています。

こうした子供たちに向かってスポーツの魅力を語り伝える言葉は昔の「オイオイお前運動しろよ、スポーツをしろ」と言っていた時代から明らかにレベルが違うような気がします。なぜスポーツを勧めるのか、一人一人を大切にする精神が当たり前になりつつあるからです。

代表選出で外す選手に心を砕いたオシム流

私は人間を大切にする思想を紹介するとき、いつもイビチャ・オシムさんの思想・哲学に触れさせてもらっています。オシムさんは2006年のW杯ドイツ大会の後、川淵さんが「あっいけねえしゃべっちゃったか」とか言って、ジェフ監督から日本代表監督になった方です。日本代表の選手は

まず多くに招集をかけて練習し、体力も測定して、さらに親善試合をするなどして最終的に23人に絞り込んでいきます。どの監督でも同じです。これはオシムさん本人からではなくスタッフから聞いた話ですが、オシムさんの場合は選抜の際に「個別の能力をとことん突き詰める。人間性では選ばない」そうです。よく頑張っている、いいやつだからというような評価は勘案しません。頑張るとはいったいどういうことか、「後半残り少なくなっても味方の選手が失ったボールを懸命に追いかけ、取り返せる力をたびたび発揮している」からだとみるのです。頑張っているという言葉ではなく、実際にどういうアクションだったのか、何をどういうふうにしたのか、それによって評価するわけです。こうした評価を足し引きしながら選手の能力を決めていきます。ですから選考にはすごく時間が掛かり、記者発表が遅れることがしばしばありました。

オシムさんは合宿に呼ばれた30人から23人を選ぶとき、外れる７人に対してコーチに説明させることにしました。通常は代表選手の名前を張り出して終わりです。大学受験の合格者発表もそうです。なのにオシムさんはなぜメンバーに選ばないのかをコーチから選手に伝えろと言い、どう伝えるのか監督の前でシミュレーションするように求めました。コーチの一員だった元ＦＣ東京の監督、大熊清さんはＦマリノスのＤＦ中澤佑二選手に選ばない理由を伝えることになりました。中澤選手は足首にけがをしていました。１回目のシミュレーションで大熊コーチは「佑二、お前足どう。痛い？無理だな、やめとけ。分かるだろ、治ったら来て」。まあこんなふうに言ったらしいんです。すると通訳の翻訳を聞いたオシムさんが突然メガネをはずして「やり直し」。怒気を含んだ声で追い返されてしまいました。大熊さんからすれば「佑二は昔からよく知っているから普通の口をきいたのだけれど、それがいけなかったのかな。短かったのかも」ということですが、２回目は手元のデータを使ってけがのとらえ方を詳しく説明し、メンタル的にも丁寧さを心掛けました。ところがオシムさんは話の途中で「なんで目を見てしゃべれないのか君は。やり直し」と再び追い返されてしまいました。30分後に呼び出しがあった時、さすがに大熊さんも「ちょっと待ってくれ」と言って、部屋でもう２回リハーサルして臨んだそうです。ようやくオシムさんから「いってきてくれ」とゴーサインが出ました。大熊さんに限らずすべてのコーチに何度も何度もやり直しをさせながら、「今回はこういう理由で外れる」という話を７人に伝え終わったのはもう午前零時に近かったといわれています。

一人一人を大切にしないと前には進めない

この話は意外と知られていません。なぜなら言われた選手はみんな翌日解散でいなくなったり、いったんスタジアムを離れたりしているからです。そのうちに１回外れて再招集された選手からその時の様子が伝わるようになり、それはコーチの判断ではなくオシムさんがやらせていることが分かり、オシムさんへの思いが高まっていきました。そのオシムさんは脳こうそくで倒れ、岡田武史さんが引き継ぐわけですが、岡田さんも当初はオシムさんが呼んだ代表選手を中心に組んでいましたので、練習が終わると選手たちが列をなして入院先の病院に見舞いに行っていたそうです。この話を初めて聞いた時にジーンときました。あとあとから選手に伝わってくるこのオシムさんのやり方は、一人一人に対する非常に重い尊重の精神が宿っているような気がしてなりません。

オシムさんは自ら話しにくいことを進んで話すということをやりました。そしてそれは改革・改善のための行動につながるのです。つまりいったん離れた選手も我々の財産であり、その財産がもう一度気持ちを高めて戻ってくるためにはその方がいいという判断です。３つめは自分で話してもよかったのですが、選手と監督の間に立つコーチという存在の重さを考えた上で彼らにメッセンジャーの役をさせた。メッセンジャーには相手を尊重した言葉を使うまではいかせず、事実に向き合ってしっかりと伝えさせているわけです。

これこそ実に一人一人を大切にする精神です。今のスポーツはここから始まらないと次には進めないと思っています。

＜講師プロフィール＞

■やまもと・ひろし　氏　1953年島根県生まれ。少年期は浜松市で過ごす。埼玉県立川越高校から東京外語大学ドイツ語学科卒業。76年ＮＨＫにアナウンサーとして入局。福島、松山、東京、福岡で勤務。サッカー、アルペンスキーなどスポーツ全般に携わった。サッカーW杯の実況は1986年メキシコ大会から5大会連続。93年Ｊリーグ開幕戦の実況を担当するなどサッカー実況の第一人者。5輪は夏冬9大会に参加した。2000年から解説委員、08年副解説委員長。09年3月に退職し、同年4月から法政大学学部専任教員。13年4月から2カ年スポーツ健康学部長。解説委員時代はサッカーをはじめ、プロ野球、大相撲の抱える数々の課題や五輪、選手強化、指導者論などに鋭い視点で切り込んだ。日本サッカー協会殿堂委員、日本陸連理事、日本体育協会地域スポーツクラブ専門委員などを務める。

幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議
4月30日／サンフロント9Fミーティングホール

15年度活動方針案を報告、政治ジャーナリスト後藤謙次氏が講演

「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は4月30日、沼津市のサンフロント9Fミーティングホールで幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議を開いた。官民一体となって東部地域の活性化を図る懇話会の活動が21年目を迎えたことから、これまで20年間の活動と東部地域の特長を踏まえ、今後、中長期的な視点から取り組むべき支援、提言活動として▽広域連携の推進▽新たな観光交流戦略の促進と支援▽ファルマバレープロジェクトの推進―を基本方針に定め、基本方針の実現に向けた活動テーマ4項目を盛り込んだ15年度の活動方針案を示した。この後、政治ジャーナリストの後藤謙次氏が「日米首脳会談と安倍政権の行方」と題して講演した。

15年度の活動テーマ（案）として掲げたのは▽世界遺産を守り、育てる支援▽スポーツ産業の創出支援▽社会資本（インフラストラクチャー）の整備推進▽「人と動物の未来センター（アミティエ沼津）」の開設支援―の4項目。

議事に先立って大石剛静岡新聞社社長は「20年間の活動を踏まえて中長期的な視点で取り組む基本方針と、実現のため年単位で取り組む活動テーマを設定しました。皆さんの一層のご支援、ご協力をお願いします」とあいさつした。市長町長連絡会議会長の栗原裕康沼津市長は「多くの提言、提案をいただいていますが、プラサヴェルデなどのように実現したものもあれば、まだ宿題として残されているものもある。地方創生が叫ばれている今こそ、近隣の市町が一体となって実現に努めたい」と力を込めた。

後藤氏は政治の現場に立脚した豊富な取材経験に基づき、日米首脳会談の背景や安倍政権中枢の構造変化などを取り上げ、「6月22日、23日、24日を注視することで政治がよく見えてくる」と呼び掛けた。

主催者あいさつ

静岡新聞社社長
大　石　　剛

県東部活性化の提言団体「サンフロント21懇話会」の活動は今年で21年目を迎えました。安倍政権は重要政策に「地方創生」を掲げ注力していますが、その中身は「地方の活性化」と言い換えてもいいでしょう。当懇話会は政府に先んじた活動を官民一体となって20年間実践してまいりました。ひとえに会員の皆さまの温かいご支援、ご協力があってこそ実践できた活動です。あらためて御礼申し上げるとともに、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

今年度の活動はこの20年間を踏まえ、今後も中長期的な視点で取り組む活動の基本方針と、これを実現するため年単位で取り組む活動テーマを設定させていただきました。県東部の都市づくり、地域づくり、まちづくり、自立促進に必要な提案・提言を積極的にしていく方針です。

講演していただく後藤謙次さんは私が静岡新聞社編集局長をしていた時の共同通信社編集局長であり、今は社外論説委員として「論壇」を執筆されています。現場を踏まえた生々しいお話がうかがえるのではないかと期待しています。

市長町長連絡会議会長あいさつ

沼津市長
栗　原　裕　康

大変僭越ではございますが、地元ということでお許しをたまわりましてごあいさつをさせていただきます。

大石剛社長からお話がございましたように「サンフロント21懇話会」は21年目に入りました。この間、本当にいろいろな提言をしていただいております。具体的に申し上げれば、ＪＲ沼津駅北口の旧キラメッセぬまづ、あるいは今のプラサヴェルデ等々、実現に向かったものがあり、私ども行政にとりまして大変大きな提言をいただいております。一方でまだまだ解決できていない宿題もいくつかあるわけでございます。

いずれにしましても「地方創生」ということがあらためて叫ばれている昨今ですので、近隣の市町が一体となって、また県議会の先生方、あるいは幹事の皆さま方、運営の皆さま方のさらなるご指導をたまわりながら、提言の実現に努めてまいりたいと考えているところでございます。このうえともものご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

講演

「日米首脳会談と安倍政権の行方」

講師：政治ジャーナリスト

後　藤　謙　次氏

官邸屋上にドローン、二階氏が出番つかむ

静岡新聞で「論壇」を執筆しています。私の出番は第２、第４日曜日でいつも金曜日の夜に原稿を書きます。先週は小型無人機「ドローン」のことを書いたところ、土曜日になって犯人が出頭してきたことが分かり、書き換えて送りました。「２つの衝撃」ということを書きましたが、ドローンが発見された時、安倍首相はインドネシアに行っていました。嫌なジンクスですが、安倍さんが留守の時、つまり海外に出掛けている時に日本人が絡む大きな事件が起きています。例えば安倍さんがＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）３カ国歴訪中にはアルジェリアで日本のプラントメーカーのベースが襲撃されて日本人10人が亡くなられ、中東歴訪では私と同じ名前の方が殺害されました。どうも安倍さんの外遊時には社会部的な事件が起きる傾向にあります。ドローンも無縁ではありませんでした。内閣府は主の安倍さんの留守を使って首相官邸の４月からの新人職員を対象に官邸内見学・研修をしました。そして屋上でドローンを見つけたのです。二階俊博自民党総務会長が「日本国として恥ずかしい」と言ったように、中枢中の中枢である首相官邸の屋上は警備されていなかったということを全国民どころか全世界にさらしてしまいました。じゃあ警察庁の警備責任者たちはこういう事態を想定していなかったかとなると、みんな想定していました。パリをはじめ、１月には米国ホワイトハウスの中庭にドローンが墜落していますから、いつ起きてもおかしくないという想定内の出来事です。なのに机上では想定されていなかった。「継続は力なり」とよくいわれますが、警備警察は昔から「継続は弛緩なり」と戒めています。この金科玉条ともいうべき法則、方程式が役に立たなかったことになります。

このドローン事件で最初に声をあげたのは二階総務会長でした。二階さんは和歌山県が選挙区ですが、ご存知の方もいらっしゃるでしょうけれど、こちらの三島や沼津、裾野などを地盤とした元建設相・遠藤三郎さんの秘書を中央大学に入学した18歳の時からしていて、遠藤さんからは「俺の地盤を引き継げ」と言われたものの、「和歌山の県議から出直します」とお断りになったそうです。この間も遠藤三郎さんの秘書時代の話を随分されていました。総務会というのは執行機関というより審議機関なのですが、そのトップの二階さんが首相官邸に飛び込んできて菅官房長官に「ドローンを何とかしよう」、しかもそれを自分が主宰する国土強靭化調査会でやると言ったのです。後で二階さんに「国土強靭化とどう結びつくのか」と聞くと、「日本の危機すべてを守るのが国土強靭化だ」とおっしゃった。目ざといと思ったのは消費税引き上げ分のごく一部を国土強靭化に充てる道筋を付けたことで、なぜかドローン対策が国土強靭化で法制化されるという事態になりました。警備に関連していえば、安倍さんが訪米にあたって決めるんではないかといわれていた来年のサミット開催地、静岡県の浜松市も名乗りを上げていますが、これを見送りました。おそらくドローンの影響、警備上の問題が関係しているでしょう。

サミット開催地決めきれず、訪米に出発

今回の安倍首相の訪米は私の取材経験からしますと、99年の小渕訪米と非常によく似ています。当時は自由党と自民党の連立政権ができ、公明党が加わる自自公連立にいくかいかないかの中間点にあり、国会では日米ガイドラインに関連する法案が審議されていました。いま現実の法律としてある周辺事態法、あるいは船舶検査法というのがあったのですが、船舶検査について小沢・自由党党首が武器を携帯して船に乗り込み、強制的に荷物を調べる臨検を主張したのに対して公明党が強

く反対をしました。この時、自自公連立をにらんで公明党にも納得してもらえる「船長の同意」案で穏便に収めようとしたのが当時の高村正彦外相でした。今は強硬路線で突っ走っているあの高村さんです。この訪米に際して小渕さんは大きな賭けに出ました。在日米軍基地の74％がある沖縄にクリントン大統領を連れて行って現実の沖縄を見てもらうという決断です。

サミットの開催地として最終的に残っているのは三重県の伊勢志摩の沖合にある賢島と長野県の軽井沢です。ただ依然として東京でやるべきだという声があります。どこでやろうともテロの時代だから首都は狙われます。例を取れば小泉内閣時代のスコットランド・サミット。初日にロンドンで地下鉄とバスが狙われた同時多発テロが起き、議長国のブレア首相はロンドンに取って返すことになりました。2020年東京五輪を控えているのだから、予行練習も兼ねて東京でやるべきだという声が過激派組織「イスラム国」（ＩＳ）のテロ以来、非常に強くなってきていたところにドローン事件が起き、安倍さんも決めきれないまま訪米したというところです。またノーベル平和賞をもらったオバマさんに原爆ドームを見てもらおうという広島開催構想はオバマさん側のハードルが高く、大きく後退をしています。（ドイツ・サミット前に伊勢志摩開催が決定）

日本開催のサミットには変なジンクスがあります。開催地を決めた総理大臣は自分が出席できないというものです。小渕さんは不幸にも脳こうそくで倒れられ、命まで失われました。安倍さんは2006年に北海道洞爺湖サミットを決めましたが、実際に出席したのは福田康夫さんです。２度あることは３度ある、いや３度目の正直か、と安倍さんに振ると嫌な顔します。この話題は別にして近年のサミットは外相や環境相、財務相などの大臣会合は開催地とは異なる都市で開かれる傾向にありますので、名乗りを上げた８都市には何らかの形で救済、カバーがあるでしょうから大きな問題にはならないと思います。

解散総選挙で先手打ち、権力基盤を強化

安倍さんは昨年暮れの12月14日、あの赤穂浪士討ち入りの日に衆院解散という手を打ちました。前期安倍政権の最大の勝負どころでしたが、当日安倍さんに電話をして「なぜこのタイミングで選挙をやるのか」と尋ねました。根拠は本来ならば今年の４月に８％から10％に引き上げるはずの消費税の１年半先送りです。安倍さんによれば、先送りに対しては、社会保障と税の一体改革で導入したのは民主党政権ですから民主党は絶対反対に転じるだろうし、これに自民党内の増税派、財政再建派が呼応すれば、財務省を中心にした霞が関全体が加勢・応援するような状況が生まれ、政変に発展しかねない。永田町の政変といえば総理大臣を引き下ろすということですから、解散で先手を打ったと言うんですね。従来、解散総選挙といえば野党に対して国会の安定勢力を得るためとか、自らの権力基盤をより強化するためという狙いがありますが、今回の解散の特徴は自民党内および霞が関に向けて振るわれた刃だったと言ってもいいでしょう。祖父・岸信介さんの苦い経験も踏まえて解散は自分が思った時にやる、解散権は行使することがいかに大切かということを強調されていました。

安倍さんはこの解散で１割減はしょうがないとみていました。当時の自民党の議席は294、１割減で260台に落ち込んでも、言い換えればリスクはとっても将来のリターンにつながると読んでいたようです。ところが民主党が意外にも準備不足を露呈し、党代表は落選した海江田万里さんから今の岡田克也さんに代わりました。その岡田さんは目の病気、網膜剥離を抱えていて、代表選もこちら５区選出の細野豪志さんが国会議員票を含め得票面ではすべて１位でしたが、党員票やサポーター票などはドント方式という複雑な計算式を使うために岡田さんの方が上回るという結果でした。自民党は若い細野豪志の登場を恐れていましたから、安倍政権はますます優位なものとなっています。

今春の統一地方選では東京でかなり衝撃的なことが起きています。農協改革が軸になった１月の佐賀県知事選では推進派の自公推薦候補が反対派に惨敗するという苦い経験をしました。にもかかわらず東京の区長選選挙では、自公が推薦し、谷垣幹事長がじかに応援に行った中央、世田谷、渋谷という人口が多く、しかも東京五輪に絡む区で自公推薦候補が敗北しています。それもかなりの惨敗です。渋谷区長選は３番手、中央区は長期の現職に対抗して多選批判の候補を立てたのですが、築地の旦那衆に蹴散らされてしまいました。やや先になりますが９月の岩手県知事選に注目していただきたい。外交官出身で小沢一郎さんの側近中の側近で現職の達増さんに対して、今は無所属ですが民主党政権下で復興大臣を務めた平野達男さんが立候補します。平野さんの後ろで押しているのが、決して表に出ようとしませんが二階さんです。

日米の一点買い、背景に日韓関係打開

安倍政権は永田町では敵なしですが、国民世論全体からいくとまだしっかりとした基盤が成立していません。さらに近隣諸国を含めた外交関係がうまくいっていません。ですから安倍さんは今年の早い段階から日米の一点買いでいくことを決めていました。きょう未明の米議会での演説、それに先立つ日米首脳会談に向けてすべてのお膳立てを進めてきたわけです。例えばエジプト、ヨルダン、パレスチナ、イスラエルに行った中東歴訪のポイントはエジプトとイスラエルでした。米国はエジプトではアラブの春でムスリム同胞団を応援しましたが、軍事クーデターで政権が代わったためしっくりいっていません。そこに安倍さんが介在して円滑化を促し、オバマさんに恩を売りたいという意図がありました。また米国が関係修復に取り組んでいるイランとイスラエルはもともと仲が悪い。イスラエルのネタニヤフ首相は核保有国となろうとしている最警戒国のイランと米国が手を組むなんて許せないと怒り心頭なんですね。安倍さんが関係修復の一端を担おうとしたのもうなずけます。

どうして安倍さんがそこまで日米首脳会談に力を入れるのか。ご承知のように中国、韓国との関係がうまくいっていないからです。とりわけ韓国は日米韓という３国の同盟的関係があるにもかかわらず、朴槿恵（パク・クネ）大統領はどんどん中国の習近平・国家主席になびいていきました。何とか日米の側に引き戻すには日米関係がより強固になることが必要で、それが朴槿恵さんに対する圧力になるというのが安倍さんの発想です。とにかく朴槿恵と習近平の間にくさびを打ち込み、その上で日米関係をより強固なものにしようとしたのです。

日中関係はやや回転をし始めました。習近平さんの場合、徹底的な対日強硬になるのは国内問題が絡んでいます。習氏の最大の政敵は元国家主席の江沢民氏です。江沢民氏が中国国内で覇権を握った最大の理由は歴史問題でした。反日の歴史教育を徹底的にやりました。ですから江沢民氏が隠然とした力を持っている時に歴史認識問題で手を緩めると、反日的な多くの市民、一般国民の精神を刺激し、矛先が自分に向かってくる恐れがあります。とにかく地盤が固まるまでは対日強硬路線を貫かなければならないという事情があります。この辺りが徐々に収まって来る一方で中国経済の減速が鮮明化し、実体経済にも影響を与え始めました。減速したとはいえ我々からみれば経済成長率７％は非常に高く見えますが、13億の民を養うためには８％以上の経済成長率がないと維持できない国なのです。日中関係の悪化により日本企業がＡＳＥＡＮにシフトしていることも事実で、中国としてはとにかく日中関係を一定のレールに乗せなければならなくなったという事情が背景にあります。一方でオバマ大統領はウクライナではロシアのプーチン大統領にやられっぱなしですし、中東では2013年夏のシリア危機の時に躊躇して空爆を延期し、シリアのアサドは生き延びたものの首都の周辺しか権力が維持できなくなり、イラクで台頭してきた「イスラム国」（ＩＳ）が権力の及ばない空白地域に跋扈して今の中東の不安を生んでいます。オバマさんは中東、ウクライナでもう手いっぱいです。ですから極東については日本に「うまく収めてほしい。日中をしっかりやってほしい」と強烈なメッセージを送っていました。

安倍総理にツキ、「前に出て決断」を実行

私は今回の日米首脳会談、米議会演説を見ていて、安倍さんのツキを感じます。昨年６月、『平成政治史』を書くにあたってどうしても埋まらない部分があったので、安倍さんに再取材をお願いしました。質問のポイントは第１次政権と第２次政権の違いでしたが、色々と聞く中で安倍さん自身がツキという話を持ち出したのです。「リーダーがツキを失うと組織全体が運を失って不幸な事態になる。１国のリーダーがツキを失うということは日本国民全員が運を失うことになる。だから自分はツキを大切にしたいと思っている」と言うんですね。これはある意味、合理的ではなく非科学的な話ですが、ツキを失わないためにどうするかというと、「まず前に出て決断することだ」と言われました。確かに第1次政権では次から次と閣僚が失言、暴言したのに対して、「自分の欠点だ」とする「情に流される」で先送りしているうちに、どんどん大きな負債を抱え込み、退陣に追い込まれてしまいました。それ以来、「必ず前に出て勝負することを心掛けている」と言うのです。これを聞いて私は「解散総選挙を狙っているな」と直感しました。この後、小渕優子経産大臣と松島みどり法務大臣の件がありましたが、２人ともあっという間に辞任させ、類焼を防ぎました。これが安倍流です。あそこでズルズルいっていたら年内解散総選挙は実現できなかった可能性があります。

中国のAIIBにらみ、TPP合意へ加速

日米関係に戻します。これまでの日米関係は多少歯車が狂っていてもその重要性は日本の総理も米国の大統領もともに共有するものがあって、走りながらでもテンポを合わせていくことができました。オバマさんはいわれているように合理主義者でビジネスライクな人物です。ここにきて中国が主導するＡＩＩＢ（アジアインフラ投資銀行）の登場があります。３月末までに57カ国が参加を表明しました。これまでアジア太平洋地域の国際金融はアジア開発銀行（ＡＤＢ）を軸に日米がすべてマネジメントしてきました。対抗策として習近平さんが打ち上げたのがＡＩＩＢです。もとになっている構想が現代版シルクロード経済圏「一帯一路」であり、中国から中央アジアを経てイランやトルコ、そして欧州につながる昔からのシルクロード経済圏に、中国から東シナ海、インド洋を抜けてアラビア半島、東アフリカに至る21世紀の海上シルクロードを加え、この２つの地域でインフラ整備や貿易促進に必要な融資をしますというものです。

これに対して米国も日本もたかをくくっていたのか、足元をすくわれた面があります。中国は昨年11月に北京で開かれたＡＰＥＣ（アジア太平洋経済協力会議）首脳会議でこの経済圏構想を提唱し、その後オーストラリアのブリスベーンであったＧ20の場でもインフラ投資推進には国際金融機関が必要だということが首脳宣言に盛り込まれました。日米ともそれにサインしているからＡＩＩＢ自体に反対するわけにはいきません。ですから「コンプライアンス（法令順守）を含めガバナンス（企業統治）がきちんとできるのですか」などと運営上の問題でクレームを付けているのが今の状況です。中国が賢かったのは欧州の出資は全体の25％と決めていたことです。これによって欧州各国の投資枠に上限が生まれ、その分１国当たりのリスクは非常に小さくなり、しかも13億人の中国市場を手にすることができるのです。

ドイツのメルケル首相はしたたかでした。３月に訪日したのですが、安倍さんには一言もＡＩＩＢに入るとはいわず、たぶん東京からそのまま北京に行って合意していると思います。そして４月に安倍さんに電話をしてきて「今からでも遅くはないから入ったらどうだ」と言っているのですから。英国も同じようなものでした。キャメロン・ショックと日本ではいわれていますが、日本の財務省などにはＡＩＩＢには参加しないという情報を流しておきながら、最終段階でキャメロンさんはＯＫを出した。キャメロンさんはオバマさんにもしらばっくれていました。米英は長い歴史に立つ同盟関係、それなのにあっさりと裏切ったわけです。あまりいい表現ではありませんが、これで外され者の同盟が急速に盛り上がったようで、今度の日米首脳会談では「中国主導のＡＩＩＢにはお互いに入らないよな」と指きりげんまんをしたわけです。中国にアジア太平洋地域における新しい経済ルールを作らせないためには、足踏み状態にあったＴＰＰ（環太平洋経済連携協定）を仕上げ、ＡＩＩＢに対抗できるものにすることが重要となりました。そのために米議会は大統領が一括して交渉できる大統領貿易促進権限（ＴＰＡ）をオバマさんに与えることになりました。米国は国民生活全般に影響のある通商交渉について政府に厳しい枠をはめています。さらに昨年11月の中間選挙で民主党が大敗し、野党・共和党が上下両院で圧倒的多数を占めています。敵対する大統領の一括交渉権を認めるとは敵に塩を送るようなものですが、それだけ中国主導のＡＩＩＢを警戒し対抗心を持っているということです。

いよいよＴＰＰ交渉も大詰めです。最後まで残っているのはコメと自動車。自動車は完成車ではなく部品の問題が焦点になります。日本政府は完成車の輸出についてはあまり気にしていません。円安が急速に進み、米国が2.5％の関税をかけても為替の問題で解決されているし、米国には完成車を日本で売る気が全くありません。買え買えと言っているのはトラックみたいなあの大きな乗用車、日本の道路事情には合わないものです。日本は自動車部品の関税を下げてもらえれば米国で実質的に完成車を作ることができ、国内と同じような値段で販売できるのです。コメの問題、これはちょっとひどい話になっています。日本は既に77万㌧も輸入しているのに、さらに21万５千㌧入れろと言ってきています。日本は今のところ10万㌧未満とし、５万㌧という答えを出しているようですが、コメ余りが続いている中、この輸入米をどうするかという問題が残っています。ＴＰＰは交渉の途中経過を公表しないことになっていますが、ほぼ合意しているのではないかというのが我々の見方です。首席交渉官会合で大筋合意し、閣僚会合とステップを踏んでいきますが、一気に進むのかどうかはまだ予断を許しません。ですが、中国という触媒があったがゆえに化学反応が早まったとみています。安倍さんにとってことし最大の、自ら掲げたハードルは一応クリアできたわけですが、日米首脳会談ではちょっと余計な

ことを言ってしまいました。安保法制について夏までに成立させると。まだ国民に法案を見せていないままに、対米公約を先にしてしまった。これによって国会審議が相当ハードになったことは否めません。

直近の政局を見るポイントは 6月22、23、24日

時間がなくなってきましたので急ぎ足で進めます。次のポイントは6月の22日、23日、24日です。まず22日。日韓国交正常化50周年の6月22日までに日韓首脳会談があるかないか。朴槿恵さんは6月に米国に行きますが、米国側から「まだ日韓首脳会談やっていないのか」とは言われたくないと思います。23日は20万人の犠牲者を出した沖縄の地上戦が終結した日です。平和の礎がある糸満市の公園で行われる慰霊の日の式典には必ず総理大臣が出席します。主催が沖縄県、翁長知事が主催者です。これがあったので4月5日の菅・翁長会談があり、その後、安倍・翁長会談が行われました。米軍基地の74%がある沖縄県の知事と一度もあっていないままホワイトハウスで会談できますかという事情もあったと思います。ですから翁長さんは「結局、日米首脳会談のアリバイ作りに使われた」と怒り心頭でした。ギスギスした関係が続いているわけですが、安倍さんは「そうは思わない。元自民党県連の幹事長だし、那覇市長選挙では真っ先に応援に行っている」と会談が実現したわけですが、すごい駆け引きがありました。那覇での菅・翁長会談で「粛々という言葉は上から目線だ。使わないでくれ」とカメラの前でやられ、恥をかかされた後ですから、官邸での会談では安倍さんが冒頭で延々と話し、翁長さんが用意した5分間用のペーパーを読み始めて肝心なところにいく前に「はい、カメラはここまで」と追い出してしまいました。露骨な官邸主導だと翁長さんが今一番怒っているところです。慰霊の日の式典出席がきっかけになるかどうか注目してください。

24日は今の通常国会の会期末の日です。この会期末でどれだけの延長を決めるかというのがポイントで、それによって秋の自民党総裁選に向けての構図が見えてきます。ご承知のように安倍さんに挑む候補者はほとんど存在しません。唯一、野田聖子さんがまだ意欲を持っているのですが、私も本人に「居酒屋に集まる20人と総裁選名簿の20人は全然重みが違うぞ」と申し上げていますが、なかなか加わる人がいません。

政権内構図は 安倍―菅―二階の三角形に

政権内の構図も明らかに変化してきました。これまでは安倍―菅という一本柱で、圧倒的な人事権、衆議院解散権を持って全体をコントロールしてきました。解散権は昨年使ってしまいました。人事権は対霞が関は握っていますが、対政治家では非常に弱くなりました。というのも自民党は人材難で、昨年内閣を改造したら、あっという間に政治資金の問題が出て来る、答弁ができない閣僚が出て来るという事態になりました。第3次内閣でこの権力をどこで補給、補強するか―。そこで生まれたのが二階俊博さんです。たたきあげの実力総務会長で幹事長に匹敵する力を発揮した金丸信さんの域にはまだ達していませんが、この二階さんと菅さんがつながった。これにより官邸内、政権内の裏の鉄骨構造は縦1本から三角形に変わったのです。この三角形が二等辺なのか正三角形なのか、あるいは不等辺なのか―。これを見極めるのが我々政治ジャーナリストの仕事であり、日々その構造の違いをどう求めていくかに私の多くの労力を費やしています。二階さんが3月の上旬にいち早く秋の総裁選安倍支持を打ち出し、そこから一気に流れが決まって谷垣幹事長があわてて支持を表明するなど安倍―菅―二階の構図がはっきりと見えてきます。皆さんもこの構図を頭に思い描いて静岡新聞をご覧になると政治が立体的に見えてきます。

＜講師プロフィール＞

■ごとう・けんじ　氏　1949年東京都生まれ。共同通信社入社後、本社政治部、首相官邸、自民党（旧田中派担当）、外務省、野党担当、自民党クラブキャップ、首相官邸クラブキャップ、政治部長などを歴任。論説副委員長兼編集委員を経て編集局長。共同通信社を退社後、ＴＢＳ「ＮＥＷＳ23」キャスター。現在、民放各局にコメンテーターとして出演している。1982年以来、政治取材の現場に立ち続け、その結晶といえる、政治家の肉声で紡いだ「ドキュメント平成政治史」（全3巻）は生々しい人間ドラマを浮き彫りにした話題の書。ほかに「竹下政権576日」、「日本の政治はどう動いているのか」、「小沢一郎　50の謎を解く」、「ジャーナリズムの＜いま＞を問う」（共著）などの著書がある。静岡新聞社客員論説委員として「論壇」で健筆を揮っている。

ラジオマイトーク　【平成27年6月7日放送】

新たな感動・価値を提供したい

上田和佳（うえだかずよし）氏
（株）ＪＴＢ中部沼津支店長

▽モットー　七転八起
▽趣　味　ゴルフ、ジョギング、水泳、映画鑑賞
▽出身地　磐田市

〈お話のポイント〉

♠弊社は中部8県が営業エリアです。沼津支店は県東部エリアが担当です。この時期にしか見られないものを見る、この時期しか食べられないものを食べに行く体験型のお客様が増えています。

♥豪華客船によるクルーズも人気です。1泊当たり2万円のリーズナブルな価格の外国客船が登場し、人気に拍車が掛かっています。7月11日に伊東と沼津で説明会を開きます。

◆世界遺産の富士山は当然人気が高く、世界文化遺産登録勧告の韮山の反射炉も非常に期待が持てます。県東部には美味しい食、多彩な温泉、豊かな自然など素晴らしい素材がそろっていますので、これからもっと国内外にアピールしていきたい。

♣商品づくりはお客様のニーズ、ウオンツをきちんと把握して、特長のあるポイントをアピールできないと人気商品にはなりません。東部にお住まいのお客様には常に新たな感動・価値を提供し、県東部へお越しのお客様には人と人、文化の交流を大事にして、地域及び日本の良さを訴えていきたい。

ラジオマイトーク　【平成27年9月27日放送】

伊豆半島の玄関口目指す

森延彦（もりのぶひこ）氏
函南町長

▽モットー　誠心誠意
▽趣　味　読書、旅行
▽出身地　田方郡函南町

〈お話のポイント〉

♠町名の由来は箱根の別称、函嶺の南に位置することからです。富士山の眺望をはじめ、気候温暖で豊かな自然、農産物など特産に恵まれています。

♥将来ビジョン「環境健康都市函南」では快適な環境で安心して暮らせる町づくりを進めています。小中学校、幼稚園、保育園の耐震補強は終わりました。図書館と子育て支援センターを併設した「知恵の和館」は大勢の人が利用する大人気です。

◆昨年2月に東駿河湾環状道路が函南まで開通し、50分かかっていた東名沼津インターまで15分で行けるようになりました。地価の上昇、住宅着工件数の増加など経済効果は顕著です。通過コースでなく伊豆半島の玄関口になるための道の駅を計画しています。休憩所の機能のほか、情報発信や防災の拠点を目指し、進めています。

♣伊豆地域は観光業の低迷、少子高齢化、人口減少など将来を展望した時、一丸となって新しい時代を開く気概とグランドデザインが必要です。それを実行するのが「美しい伊豆創造センター」です。

ラジオマイトーク　【平成27年8月2日放送】

3世代で楽しむくつろぎの施設

田村治義（たむらはるよし）氏
（有）ワールドプロジェクト
ニューウェルサンピア沼津総支配人

▽モットー　一期一会
▽趣　味　スポーツ観戦、囲碁観戦
▽出身地　駿東郡清水町

〈お話のポイント〉

♠宿泊施設、体育施設、屋外プール、ビア・バーベキューガーデン、天然温泉、それに健康型老人ホームがあり、親子孫三世代で楽しむことができる、癒しとくつろぎの施設です。

♥野外プールは連日、子供たちでにぎわっています。山の上にあるので井戸水を使っていて、ひんやりする水温も人気です。体育施設があるので、バレー、バドミントン、空手、卓球、テニスなどの合宿にも利用してもらっています。夏の後半は子供の合宿が多いです。

◆食事にも力を入れています。和洋食を中心に朝食はブッフェスタイル、夕食は個人出しにしています。沼津市内に2カ所しかない天然温泉「伊豆かかりつけ湯」の一つです。

♣東名・愛鷹パーキングエリア（ＰＡ）に来年3月までにスマートインターが出来ます。そうすればＰＡから3分で到着し、便利になります。近くに大型商業施設の計画もあります。東名、新東名を基軸に下田まで東駿河湾環状道路が延びれば、行きも帰りもサンピアを起点にしてほしいです。

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

◇ひがしおかメディケアクリニック	院長	東岡　宏明
◇(株)前田建設	代表取締役	前田　磨
◇(株)ＭＹコミュニケーションズ	代表取締役	須田　哲司
◇東静運送(株)	代表取締役会長	鈴木　正二
◇加和太建設(株)	代表取締役	河田　亮一
◇三嶋観光バス(株)	代表取締役	室伏　強

■会員の変更

◇富士商工会議所
　会頭　遠藤　敏東　→　会頭　井出　稔

◇(株)静岡銀行沼津支店
　執行役員支店長　大橋　弘　→　執行役員支店長　鈴木　浩靖

◇静岡県賀茂振興局
　局長兼政策調整監　土屋　優行　→　局長　杉本　隆一

◇米久ベンディング(株)
　取締役営業統括本部長　井畑　昭彦　→　代表取締役　斉吉　文幸